Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：半　田　　稔　　幹事：五十嵐　　信

地区目標　「美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～」

クラブテーマ　「あなたのロータリーをみつけよう」

◆点鐘：半田　　稔 会長　　◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
◆司会：山賀賢司 副 S.A.A.　　◆会場：大沼デパート

ロータリー：
変化をもたらす

第2792回例会　　平成29年12月4日(月)　　Yamagata West Rotary

会長挨拶

半田　　稔 会長

記者会見

今日は、先日ラジオで聞いた武田鉄矢さんの話が大変興味深かったので、そのまま紹介させていただきます。それは、記者会見における報道記者の質問次第で、相手を追い込むこともできるし、怒らせることもできる、その場をしらけさせることもあれば、感動させることもある、ということです。

そこで引き合いに出されていたのが、「大震災が東北で良かった」との発言で辞任した復興大臣が、しつこく質問した記者に、「うるさい！」「出て行け！」と発言した記者会見です。大臣は、除染が進み、莫大な費用がかかる自主避難者に対する住宅の無償提供を中止したことを発表しました。これに対し、ある記者が、帰宅できない避難生活者がいるという紛れもない事実を引き合いに出して、大臣の回答に納得せずに同じ質問を繰り返し、ついに大臣が切れてしまった、というものです。

また、今年4月の浅田真央さんの引退記者会見において、「今までで最も印象に残っている大会は」という質問は、みんな聞きたいところだけれども、真央さんが悩んで、回答までに時間がかかった。確かに、優勝したり、思いどおりの演技ができたということで印象に残ることもあれば、悔しい思いをしたことで印象に残ることもあります。特にテレビ中継されている記者会見ということを意識して、すぐに答えられる質問をしてほしいということでした。

それから、これはインターネットなどでもあきれられていたのですが、「トリプルアクセルにどんな言葉をかけたいですか」という質問。これも真央さんが考え込んでしまいました。真央さんが考えた末に「なんでもっと簡単に飛ばせてくれないの?」と回答したのはお見事でした。

武田さんが褒めていたのが、ある記者の次の質問です。「真央さんは、『自分が言ったことは必ずやり遂げるというポリシーがある』とおっしゃっていました。このポリシーはどなたから授かった教えなのでしょうか?」真央さんはすぐに「母です」と答えました。記者は引き続き「ではそのポリシーを貫いた体験は」と質問したところ、真央さんは即座に「小さいときの合宿で、トリプルアクセルを飛べるようになると言って、合宿中に飛べた時」と答えました。記者は最後に「そこが浅田真央という素晴らしいアスリートの原点と考えてよろしいのでしょうね」と締めくくりました。

真央さんの魅力を短時間で引き出し、会場を感動させました。このような質問をするのが記者の「職業奉仕」と言えるのかもしれません。

幹事報告

五十嵐　信 幹事

●12月のロータリーレートは1ドル当たり112円です。
●先週、佐山さんの奥様から20万円のご厚志をいただきました。佐山先生ご自身のお考えで、基金に入れさせていただきたいと思います。
●遠藤栄次郎さんに、メジャードナーの第24回功労者表彰が来ております。
●ネルソン君より挨拶「昨日東京に行き、毎日の人ごみに驚き、今度は、ゆっくりいろいろな公園に行きたいです。」
●山形勤労者福祉サービスセンターのチラシがありますので、ご興味のある方は帰りにお持ちください。
●髙橋勝治さんから、カレンダー10部の協賛がありました。また、西ロータリークラブの60年史寄贈のお礼状が県立図書館より届いております。
●本日、理事会を開催いたします。

永年在籍ロータリアン
40年表彰
長谷川浩二さん

ガバナー賞 表彰
中山　眞一さん

委員会報告

親睦・家族委員会

大西　章泰 委員

会員の方が7名、奥様が4名、12月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

米山奨学会委員会

芦野　　茂 委員長

12月2日2018学年度米山奨学生学生の募集選考試験がありました。今年度は21名募集がありました。また、10月は米山奨学、米山月間ということで多数の方々からご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。今年度、まだまだ募集しておりますので、ご理解のある方はよろしくお願いいたします。

ゲスト卓話

『人口減少社会における医療の姿、地域からの発信』

山形県立河北病院
院長
多田　敏彦 氏

多機能病院

山形県は、日本と同じように人口減少がずっと続きます。65歳以上の人口は維持されるけれど65歳未満は減少する、恐ろしい社会が来ます。それで医療需要は減少して介護需要が増加します。その結果、急性期の医療が縮小されて、医療やケアが拡大して行きます。私は5年前に多機能病院を作ったわけですが、その結果わかったことは、施設、在宅、病院だけでは完結しませんから、いろんなところを繋がなければならない。この繋ぎを病院で行っています。大事なのは困り人繋ぎ、これはすごく大事なんですけれども、経営的には破滅の道になって行くのがわかりました。

院長に就任したの2013年、河北病院の医師は31名でしたが、翌日には25名になりました。国民と同じように医師も高齢化しています。山形県の高齢化を見ますと、西川町と朝日町、2つの町は西村山地域最大の高齢化の町です。山形市も含めて村山地域の医療介護需要を予測しますと、2040年に向かって医療需要は減少して、介護需要が増加する、私が想像した通りです。西村山地域の疾病予測として、どこへ行っても骨折、肺炎、アルツハイマー、心臓、脳みそ、パーキンソンです。あまり増えないのが糖尿病とガンです。基本的に老化現象です。一旦骨折された方というのは骨折する身体になっているので、もう治りません。だから老化ということをどこかで人間は気付かなければならないと思っております。

医師不足、これは院長お前の責任だと何回も言われました。皆さんご存知でしょうか。『日本医師会雑誌』に県別医学部進学者数、つまり高校を卒業した人が県別にどれだけ医学部に入ってくるかの実数です。山形県は最下位の45名。山形県の人口は35番目なのに進学者数は47番目です。比例配分になっていないんです。これが原因ではないかと思っています。そして、医師の偏在です。平成16年から10年経った山形市は増えていますが、西村山では減っています。これからもどんどん減ります。すると、在宅医療をやらないと患者さんがそのあと困ることが見えてきました。

では、治らない病気はどうするのかというと、私が考えたのは「お付き合い型」。治らないものはあきらめるしかないと思って、今、地域住民の方にお話をしています。高齢の80歳、90歳、100歳となった時に、命がけで治療できるだろうか。「治療を受けるのも結構大変なんですよ」という問いに対して、「いや、大丈夫だ。俺はがんばる」、そういう方は、高次機能病院にご紹介させていただいて、とことん医療が始まり、「待てよ、お付き合いもやってみるか」という方は、地域の病院でほどほど医療です。ほどほど医療とは、適当ではなく、生活を支えながらやってく医療です。

この5年間、医師会、老人クラブ、区長会、町内会、婦人会、歯科医師会、薬剤師会、東京の自治医療会館、それからいろんな町を周って、同じお話をさせて頂きました。そして今日の西ロータリーで58回目です。最初「ばかやろう」と言われましたが、何度も聞いて頂くうちに、「そうだな」という方が増えてきました。

困り人繋ぎと緩和ケア

山大医学部の教授陣を訪問して、5年間で173回講演いたしました。そこで「生活支援型医療」と「困り人繋ぎ」というお話をさせて頂いているわけです。繋いでみると、いろいろおもしろいです。例えば、河北病院に救急車が来ます。できない診療は高次機能病院に搬送します。そこで落ち着いたら河北病院に戻ってきてリハビリして自宅へ帰る。それから2つの入り口があり、リハビリ中心の病棟に直接入る方。がんで困っている方が直接入る方。その方々は結局自宅に帰りますが、その間に歯科治療の往診や薬剤師の方に自宅を訪問してもらったり、これを全部繋ぐことをやっております。

河北病院では訪問看護を作りまして、退院した患者さんへの支援、4月からは応援により火・木・金と医師が救急病院に張っております。日中・平日の救急を手厚くしたわけです。その先にあるのは、夜間の受診を日中にコンバートすることです。独居高齢者の対応を、まず優先しようと思っています。

包括ケア病棟は、リハビリをする病棟ですが、山形大学に173回お願いしに行って、繋ぐことにしました。大学病院で、胸部外科、血管外科の手術をした患者さんは、1カ月ぐらいして一般病棟に上がりますけれども、あちこち体が動かなくって自宅に帰れない。でも、いつまでも入院されたら困る、となってくると、繋がなければならないんです。その繋ぐときに、当病院のリハビリ専門の病棟に入院して、ペインクリニックの先生、リハビリの先生、管理栄養士、病棟看護師に面倒を見てもらって、退院支援の部門で、自宅の状況を写真に撮り、お風呂の深さ、玄関の上がり口の高さ等を測り、リハビリを行います。そういうことをして、繋がないと、自宅に帰れない時代なんです。そして約1カ月で退院されました。嬉しいことです。

あともう1つは、がん患者さんに和んでもらう緩和ケア。治療の1つ「動物介在療法」の免許を取得して、緩和ケアができるようになりました。山形県の北村山、西村山地域を専門医2名で行っています。2016年4月から10月で219回、今年はおそらく600回を超えるのではないかと思われます。「自宅は病棟だ、死にたいところでやるんだ」というのが緩和ケアの先生方の理念です。

薬減らし

最後に、地区医師会、歯科医師会、薬剤師会と一緒に活動している中で、皆さんが非常に興味があるのは、お薬の話だと思います。今、入院中にお薬を減らして退院するシステムに取り組んでいます。医師会の先生方と一緒に、2016年4月1日から11月末まで調査した結果、入院時、退院時の累積ですが、6650錠が3477錠で退院しています。つまり、半分ぐらいのお薬で帰っています。地域の先生方には納得してもらっていますから、いずれは西村山地域では薬はだんだんだんだん減ってきます。県民からも喜んでもらっております。

過去5年間、そういう認識づくりを行ってまいりました。大事なことは「困り人繋ぎ」。赤字にはなりますけれども頑張ります。県民がこういう医療を何かと選択する時期にきているのではないかと思っております。

ニコニコBOX

長谷川浩二さん／40年間、皆出席地区表彰 会員諸兄のおかげさまです。

＜本日出席・修正出席＞

	会員総数	出席会員数		会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日出席（12/4）	101名	57名	修正出席（11/12）	102名	85名	80名	94.12%
メークアップされた会員	（山形中央）鈴木　隆一、小松　公博、武田　博文、冨田　浩志、大城　誠司、伊藤　義彦、風間　義郎、晋道　純一 東海林健登、松原　洋、海和　浩運 （山形南）長岡　壽一 （山形北）伊藤　歩、山賀　賢司、浦口　太門						